

## クルーズターミナルにおける多目的空間利用に関する研究 Research on the Multifunctional Space Utilization in Cruise Terminals

○鈴木陽斗<sup>1</sup>, 寺口敬秀<sup>2</sup>, 桜井慎一<sup>2</sup>, 阿部拓真<sup>3</sup>

\*Haruto Suzuki<sup>1</sup>, Terakuchi Takahide<sup>2</sup>, Shin-ichi Sakurai<sup>2</sup>, takuma abe<sup>3</sup>

In this study, we aim to assess the current usage and purposes of cruise terminals, ferry terminals, and passenger waiting facilities (76 locations nationwide) through internet-based literature review. We will explore alternative utilization methods, especially when establishing new hubs. These facilities, including cruise terminals, possess untapped potential to generate vibrancy beyond port calls, with their picturesque harbor landscapes being in high demand as filming locations. Our research will offer specific ideas to transform cruise terminals into appealing hubs.

### 1. 研究背景および目的

わが国では、新型コロナ禍蔓延以前クルーズ船寄港回数は増加傾向にあり、最も多かった2018年の全国の寄港回数は日本船が1017回、外国船が1913回で合計2930回<sup>[1]</sup>を記録した。それにより各地でクルーズ船の受入体制の整備を進められてきた。しかし、寄港しない日もあるため、寄港時以外の施設活用の方法を工夫することが重要である。

そこで本研究では、全国のクルーズターミナルにおいて現状の施設用途と利用内容を把握し、クルーズターミナルの利活用について考察することを目的とする。

### 2. 研究方法

「CRUISE PORT GUIDE OF JAPAN」<sup>[2]</sup>に記載されている港湾115か所からクルーズターミナル、フェリーターミナル、客船待合所合計76か所を対象にインターネットによる文献調査を行い、施設概要と施設利用についての調査を行う(表1)。

### 3. 調査結果および考察

施設概要を表2、貸出利用を表3、寄港実績と施設あり、施設内にCIQ検査ありを図1に示す。

#### 3-1. 寄港実績の分布

寄港実績について調査を行ったところ1以上5未満が最も多く、次いで0が多いという結果になった。基本的に寄港回数が少ないことから今後新しい拠点を整備する際に寄港時以外の活用方法を意識することが重要であることが考えられる。

#### 3-2. 施設概要

施設概要について調査を行ったところ待合スペースが最も多いという結果になった。待合スペースでは、椅子が可動式の施設と設置されている施設があり、可動式のところでは待合スペースの貸出利用を行っていた。次いで多かったのはショップ・売店である。新

表1. 調査概要

調査対象	「CRUISE PORT GUIDE OF JAPAN」に記載されている港湾115か所のうちクルーズターミナル、フェリーターミナル、客船待合所76か所を対象とする
調査方法	インターネットを用いた文献調査
調査内容	2018年の寄港実績、施設概要、貸出利用
調査期間	2023年8月20日～2023年9月26日

表2. 施設概要

施設概要	割合
待合スペース	50.0%(27/54)
ショップ・売店	38.9%(21/54)
レストラン・食堂	27.8%(15/54)
CIQホール・スペース	27.8%(15/54)
会議室・教室	22.2%(12/54)
駐車場	18.5%(10/54)
ホール	18.5%(10/54)
広場外	18.5%(10/54)
出入国スペース	13.0%(7/54)
展望デッキ	13.0%(7/54)
事務室	11.1%(6/54)
送迎デッキ	11.1%(6/54)
企業	9.3%(5/54)
ロビー	7.4%(4/54)
カフェ	5.6%(3/54)
休憩スペース	5.6%(3/54)
観光ブース	5.6%(3/54)
コインロッカー	5.6%(3/54)
緑地	5.6%(3/54)
ウッドデッキ	3.7%(2/54)
インターネットブース	3.7%(2/54)
ピアノ	1.9%(1/54)
キッズスペース	1.9%(1/54)
漫画喫茶	1.9%(1/54)
パントリー	1.9%(1/54)
プラネタリウム	1.9%(1/54)
ポートミュージアム	1.9%(1/54)
レンタカーカウンター	1.9%(1/54)
パブリックスペース	1.9%(1/54)
ホテル	1.9%(1/54)

表3. 一般利用可

一般利用可能	割合
会議室	58.8%(10/17)
ホール	52.9%(9/17)
広場	41.2%(7/17)
CIQ	29.4%(5/17)
撮影	23.5%(4/17)
事務室	17.6%(3/17)
出入国・待ち合ロビー	17.6%(3/17)
駐車場	11.8%(2/17)
展望デッキ	11.8%(1/17)
サイネージ	5.9%(1/17)
ピアノ	5.9%(1/17)
パントリー	5.9%(1/17)

1: 日大理工・学部・海建 2: 日大理工・教員・海建 3: 日大理工・院(前)・海建

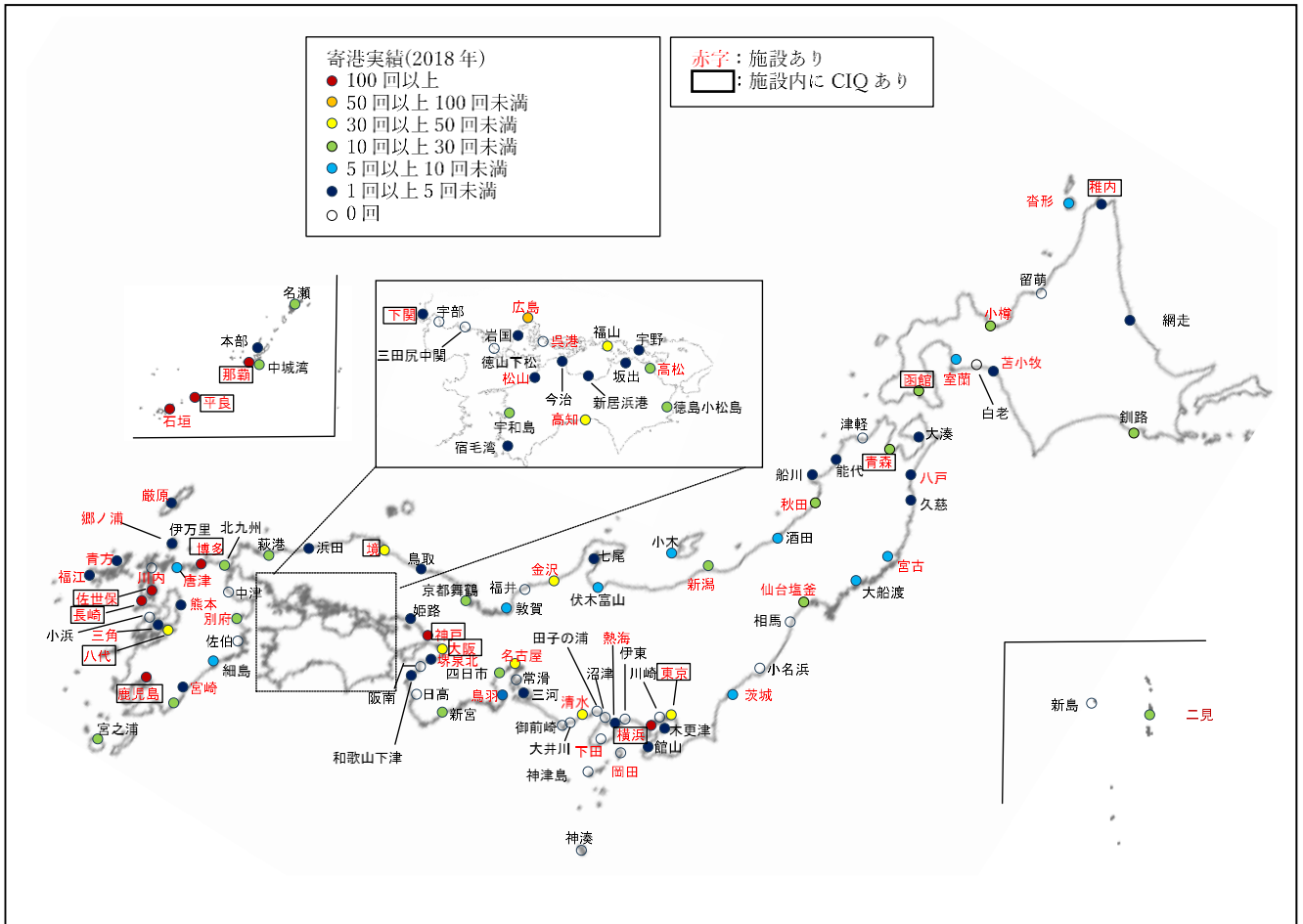


図1. 寄港実績と施設のプロット

港ふ頭客船ターミナルではデパートのようなスイーツやコスメなどを販売しており、地方の地域では特産物を販売しているところが見受けられた。

3-3. 施設の貸出

ホールの活用として大さん橋国際客船ターミナルでは、4つのスタイルの使用例があり展示会や講演会、コンサート、イベントなどの幅広い多目的利用が可能であり、接する野外劇場も拡張使用ができる。さらに大きな窓があることで、内から広々とした海を背景にできることから海辺という立地の魅力を活かしておりほかの施設でも同じ特徴を持っていた。

CIQスペースや待合ロビー、出入国スペースでは、寄港時の場合その用途として活用されているが平常時では、イベントや展示会など広いスペースを有効に活用している。

撮影の貸し出しではテレビ、ポスター撮影、プロモーションビデオ、映画撮影などの営利目的で撮影撮場所として利用できると、4つの施設がホームページに記載していた。結婚式の前撮り・後撮りを行うことができる施設もあり港湾の魅力的な景観は撮影場所としての需要高いということが考えられる。

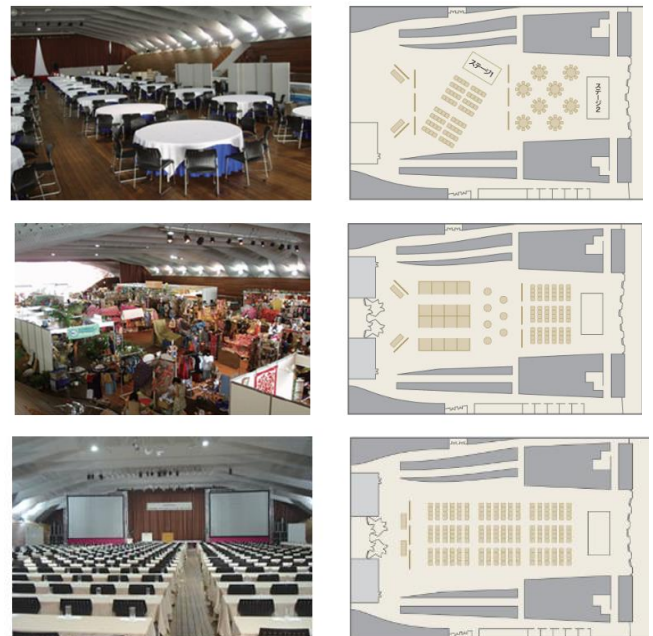


図2. 4つのスタイルの使用例

【参考文献】

[1]国土交通省：2018年の我が国港湾へのクルーズ船の寄港回数及び訪日クルーズ旅客数について(確報)<https://www.mlit.go.jp/common/001296027.pdf>  
 [2]国土交通省：クルーズ船の寄港地情報,  
<https://www.mlit.go.jp/kankocho/cruise/jp/index.html>,2023.9.26 参照